

2017年6月18日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 使徒言行録3章1節～10節

03:01 ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。03:02 すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日「美しい門」という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。03:03 彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しをこうた。03:04 ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。03:05 その男が、何かもらえると思って二人を見つめていると、03:06 ペトロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」03:07 そして、右手を取って彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、03:08 躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行った。03:09 民衆は皆、彼が歩き回り、神を賛美しているのを見た。03:10 彼らは、それが神殿の「美しい門」のそばに座って施しを、乞うていた者だと気づき、その身に起こったことに我を忘れるほど驚いた。」

説教 『神を賛美し、境内に入る』

◆今日、かねて準備を進めてきました教会チャリティーバザーの日を迎えました。お天気のことを心配しましたが、陽がさしてきました。今日はそういうことで日曜学校の子もたちと大人の合同礼拝としたのですけれど、今日は子どもたちが運動会とか部活とか幼稚園の行事とか重なって、誰も来られなくなったのです。ところが今3階の日曜学校の部屋に、この7月で3歳になる“ももちゃん”がお父さんの三井さんと一緒にいます。あっ！愛衣ちゃんと陽音君も、今は入ってきました。

◆ところで只今読んでいただきました聖書の箇所は、小見出しに「ペトロ、足の不自由な男をいやす」という小見出しがついています。小見出しというのは聖書の本文ではないのですが、私はここを読みまして、この小見出しは思いやりがないなあと思いました。書いてあることに間違いはないのです。「ペトロ、足の不自由な男をいやす」。この男の人は40歳過ぎていたと、後の方に書いてあります。「生まれながら足が不自由」で、40年以上も歩けなかった人なのです。

「ペトロ、足の不自由な男をいやす」では、突き放していませんか。この人は、生れながら足の利かない人なのです。「足の不自由な男」。この「男」に、みなさんは何か感じませんか。「ペトロ、足の不自由な人^ををいやす。」小見出しつけるならそうしないといけないのですね。これは

小見出しで本文ではありませんが、本文の方を見ますと、「ペトロとヨハネが午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。するとまれながら足の不自由な男が運ばれて来た」とあります。ここは聖書の本文です。ここは、「男」でなく、「人」と訳してほしい。生まれながら足がきかないで40年以上、このような状態でずっと生きて来た人なのです。お父さんにとっても、お母さんにとっても、また兄弟姉妹がいたかどうかは分かりませんが、本当に大変な状態だったと思います。これは翻訳ですからいろんな訳が可能ですが、この「男」は「人」と書き換えなければいけませんね。そうでないと以下に書かれている物語とそぐわないと思います。

◆ところで去年の今ごろも、この箇所ですでに説教しているのですが、いろんな参考書を読みましたが、幾つかの注解書は「今日のこの物語は使徒言行録が記す最初の奇跡物語である」と書いています。「奇跡物語」であることには間違いありません。しかし、「使徒言行録が記す最初の奇跡物語」というのは本当でしょうか。1節に、「ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った」とあります。ここはエルサレムの神殿です。当時ユダヤ人は朝の9時と正午と午後三時に、どこにあってもお祈りをするのが習慣でした。今でも、イスラムの人はどこにいても一日5回メッカに向かいお祈りをします。淀川キリスト教病院が新しくなって立派な礼拝堂ができました。その礼拝堂の脇のところに小部屋があるのですが、イスラムの人の為に設けたお祈りの部屋なのでしょうね。

◆それで「ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った」のです。こう描写しています。これは奇跡なのです。先ほど、「使徒言行録が記す最初の奇跡物語」としている注解書のことを話しましたが、これを、すべて間違いとは言えないのですけれども、「奇跡理解」が浅いと思います。というのは、生れて40年以上、足がきかなかつたこの人が立ち上がったのですから、これは奇跡に違いないです。けれども、今「ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った」と書いてあります。二、三か月前に、主イエス・キリストがエルサレムの郊外で磔になって殺されたのです。そのことによって、ペトロもヨハネも、この上ない人生の試練に落ち込んだのです。今度は自分たちも磔にされるのではないかとこの恐怖に落ち込むのです。そういう「ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った」と記されているのです。これはペトロとヨハネのことを知らない人ならば奇跡とも何とも思わないでしょうけれども、私たちは幸いに聖書を通してペトロとヨハネが地獄に落ちたとの形容も足りないくらい経験をしたことを知っているわけです。その2人が、白屋に堂々と宮詣でをするなどということは考えられないことです。ところが二人は、もう当たり前のように宮に上っているのです。もちろん40年以上不自由だった人が躍り上がって歩きだした。そ

して歩きまわって踊って神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行った。だからこれが奇跡でないというのではないのですが、ペトロとヨハネが普通に歩いている姿を、奇跡と呼べない註解書の奇跡理解は浅いと言わなければなりません。

◆そういう意味で今日のこの奇跡物語の箇所を読んで、子どもたちに「題を付けなさい」と問題を出したことがあります。しかも「4字熟語」で題を付けなさいと言ったら、さっと手を上げて中学3年の果歩ちゃんが、「喜怒哀楽」という題をつけました。ペトロとヨハネが普通に歩いています。身なりは立派とはいえないけれど、その歩きぶりというか足音は、正に奇跡を経験した人と思えるような、足取りは他の人と違う、身なりはよくないけれど、その雰囲気、この人の長年の経験で、施しをしてくれるかどうかを見抜いていました。間違いないと思い、施しを乞うた所、ペトロは言います。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」そして、右手を取って彼を立ち上がらせませす。すると、たちまち、その人は足やくるぶしがしっかりして躍り上がって立ち、歩きだした」のです。そして、「歩きまわって躍り上がって神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行ったので、民衆はみな、彼が歩きまわり神を賛美するのを見た。彼らはそれが神殿の美しい門の側に座って施しを乞うていた者のその身に起こったことを、我を忘れるほど驚いた」とあります。正に奇跡を経験したペトロとヨハネが奇跡を呼んだのです。それで、この多くの人々は、奇跡をもたらしたペトロとヨハネよりも、今まで美しの門の外で物乞いをしてきたこの人が立ち上がって神様を賛美している方に目を奪われたと思いますね。これもさきほどの註解の使徒言行録が記す最初の奇跡物語という、多くの人がそうだったけれども、ペトロとヨハネが午後3時の祈りの時に神殿にのぼって行ったのも、奇跡なのですね。

◆先週月曜日と火曜日に同じ人の訪問をうけました。月曜日に来られた時は本当に疲れ果てて、という様子で来られました。そして火曜日に同じ人がまた来られました。服装は全く同じですけど、顔色というか声の調子が昨日と全然違うのです。あれ！何かあったというのは私でも分かります。そして相談があるのですということで中に入ってもらって話を聞かしてもらったわけが分かりました。自分の進路が見つかったというのです。昨日は進路が見えなかった。しかし、昨日の夕方、進路が見えた。それで火曜日に訪ねて来られた。月曜日は帰って行く後姿は気の毒なほどの様子でしたが、火曜日、話す声にも力がある。帰って行く後姿も、力図よいのです。ですから人は心に何を宿すかで変わりますね。正にペトロとヨハネが落ち込んだ時のことを知っている人は、これが同じ人かと思うような変わりようです。ペトロとヨハネは奇跡を経験したのです。

◆私たちが心に何を宿すかで変わります。心が思い煩うと本当に疲れてしまいます。しかし、神様が全てをご覧になっておられ、顧みていて下さり、その善き御心がかつても為さって下さったし、今も、これからも為さって下さるとの信仰がしっかりして来ると、私たちは思い煩いから解放されます。思い煩うと仕事が手につかなくなります。集中できなくなります。ペトロとヨハネに臨んだ試練は、生易しいものでなかった。しかし二人は、本当に晴れ晴れと神殿に入っていくわけです。そのような事ですから、この二人は「歩く奇跡」と言っているのです。

◆「ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。」この「歩く」には普通に歩く意味と、「生きて行く」の意味があります。「キリスト」というのは「救い主」と訳されますけれど、「イエス」は固有名詞です。「イエス」は旧約聖書で「ヨシュア」という名前の砕けた表現です。意味は、「神の救い」です。神様が救ってくださいます。本当にそのことを私たちに示し、その実態を生きて下さった御方、そして今も私たちと一緒に歩いていて下さる御方が「ナザレ人イエス・キリスト様」なのです。あなたもこの方に頼って、再起できます。イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩く。これが、ペトロたちが経験し、今歩いている姿なのです。そしてペトロはその人の右手をとって立ち上がらせるのです。がっかりしていた彼はびっくりですね。このようにして歩けない人が歩けるようになったのです。奇跡です。

◆イエス様はありとあらゆる病を癒されたと福音書に記されています。癒すという言葉は、「病む人を神様として仕える」と言う言葉です。イエス様が自分の持てる物全てを神様に捧げるように病む人一人一人に捧げる。神様の顧みは途切れません。神様は善き時に善きことをして下さるのです。何度も引用する御言葉ですが、イザヤ書46章4節にこのような御言葉があります。「わたしはあなたがたの年老いるまで変らず、白髪となるまで、あなたがたを持ち運ぶ。わたしは造ったゆえ、必ず負い、持ち運び、かつ救う。」これは神様の約束の御言葉です。真実な神様は、その約束を必ず果たして下さる御方です。この御言葉に支えられている私たち一人一人であります。信仰の歩みをしっかりしてまいりましょう。

◆お祈りいたします。

憐み深い主イエス・キリストの父なる神様。あなたは語れた通りの事を必ず実行なさって下さいます。そのことを今日の聖書を通して覚え、またわたしたちの今日に至るまでの人生を振り返り、誠に、あなたは善き御方であることを改めて覚え心から感謝いたします。どうかわたしたちが、あなたの恵みを覚え、共に歩んで行けますように。いま司会者の祈りにもありましたように世界は今、本当に混沌としていますけれども、互いに思いあって、あなたの平和のうちに歩ませてください。この祈りイエス様のみ名を通しみ前にお献げいたします。アーメン